

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立弘済中学校分校

令和 7 年 4 月

大阪市立弘済中学校分校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

分校の児童・生徒は、児童自立支援施設の阿武山学園に入所している。児童・生徒は、学校・家庭・地域で何らかの問題行動を起こしてきており、生活背景や置かれていた環境が複雑で、虐待・ネグレクトなどにより幼少時より十分な家庭教育を受けていない者が多く、学習習慣はもとより、基本的な生活習慣や規範意識が十分に身につけていない状況である。

また、基礎学力にも不安があり、自己肯定感や達成感を持てずに日々を過ごしてきた子どもたちでもある。さらに、年度途中での入所、転入の児童・生徒が多く、計画的・系統的な学習指導が難しい。近年では、性被害・性加害等を経験した児童・生徒の入所が増加しており、男女間の問題行動が学校生活や学園生活に乱れを起こす可能性があることから、男女別の学級編成を実施している。

施設で生活する中で、衣食住が満たされ、精神的に本来の落ち着きを取り戻した子どもたちに、基礎学力の定着と基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせるとともに、豊かな心の育成を核とした、自己有用感や生きる力を育む教育の推進を図ることが、分校の大きな目標であると考えている。そのためには、児童・生徒と教員との信頼関係が指導上最も重要であり、個別学習や少人数指導等による学力の向上や、綿密な生徒理解によるきめ細かな生活指導など、教員との心の通った学校生活の場を作り出すことが大切であると言える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、相手の気持ちを理解したり考えたりして発言や行動ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 **(R 6 =84.1%)**

(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 **(R 6 =95.5%)**

(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)

- 令和4年度～令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年70%以上にする。

(R 6 =64.3%)

(2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 **(R 6 =84.1%)**

(4 誰一人取り残さない学力の向上)

4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 **(R 6 =97.7%)**

(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を毎年90%以上にする。 **(R 6 =88.6%)**

(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和4年度～令和7年度の、学園に対する校内アンケートにおける「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目について、肯定的な回答をする学園職員の割合を毎年90%以上にする。 **(R 6 =85.7%)**

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
(R 6 = 75.0%) (「だいたいそう思う」を加えると 97.7%)
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(R 6 = 0%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(R 6 = 0%)
- 令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、相手の気持ちを理解したり考えたりして発言や行動ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R 6 = 84.1%)
(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)
- 令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R 6 = 95.5%)
(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。
(R 6 = 64.3%) (2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上とする。

(R 6 = 38.6%) (「だいたい思う」を加えると 75.0%)

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5点以上向上させる。

R 6 = 現3年生：国語-6.6点、数学-13.9点 現2年生：国語-16.8点、数学-19.8点)

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を10%以上にする。 (R 6 = 25.0%)

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 (R 6 = 70.5%) (「だいたい好き」を加えると 90.9%)

○令和6年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R 6 = 84.1%)

(4 誰一人取り残さない学力の向上)

4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)

○令和6年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R 6 = 97.7%)

(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

○令和6年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 (R 6 = 88.6%)

(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]

(R 6 =12 月現在 13.3%)

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

(R 6 =70.0%)

○令和6年度の学園に対する校内アンケートにおける「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目について、肯定的な回答をする学園職員の割合を90%以上にする。 (R 6 =85.7%)

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

○ホームページを含む広報活動や学園・保護者・関係機関との連携を、組織（広報・連携推進プロジェクトチーム）により活性化させ、学園行事に対する「協力・連携」の項目や、生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答をする学園職員の割合を80%以上にする。

(R 6 =道徳：92.9%、学力向上：96.4%、運動体力：92.8%、連携：85.7%)

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立弘済中学校分校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。 (R 6 = 75.0%) (「だいたい思う」を加えると 97.7%) ○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (R 6 = 0%) ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 (R 6 = 0%) ○令和 7 年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、相手の気持ちを理解したり考えたりして発言や行動ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。 (R 6 = 84.1%) (2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進) ○令和 7 年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 90%以上にする。 (R 6 = 95.5%) (2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進) ○「ポジティブ行動支援 (PBS)」に関する校内研修を複数回実施し、あらゆる活動に PBS 取り入れることによって、自尊感情を高め、積極的に行動できる子供たちを育てる。 (2 豊かな心の育成 2-1・3 道德教育・人権教育の推進) ○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 70%以上にする。 (R 6 = 64.3%) (2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【２－１、道徳教育の推進】（道徳担当） 学力向上PJチームが年間計画や教材の選定を行い、教科書を活用した道徳授業を、担任を中心として学年団において輪番制で実施する。 指標 年間 22～35 時間以上、教科書を使用した道徳教育の授業を実施する。	
取組内容②【２－１、道徳教育の推進】（道徳担当） 教科書を活用した道徳授業を深化充実させるため、外部講師を招聘し、校内教員研修を実施して、教員の指導力の向上を図る。 指標 校内教員研修を年間 2 回以上実施し、道徳教育の指導力向上を図る。	
取組内容③【２－２、キャリア教育の充実】（キャリアPJ） 「つながる力向上プログラム」を採り入れることで、生徒が自らの特性を深く知り、特に弱点を克服する機会を設けることで、卒業後によりよい社会生活への適応ができるようにする。 指標 「つながる力向上プログラム」に加え外部講師を招いての夢授業、職業講話をそれぞれ年 2 回以上実施し、将来の人生設計を考えるきっかけとなる機会づくりにつなげる。目的意識をもって進学することで、これまでの高校中退率が卒業生全体で約 70% 近くあったが、卒業後 3 年間の中退率を 50% 台にまで減少させる。 キャリア教育の取り組み全体を通して、年度末の独自アンケートにおいて「生徒が将来の人生プランに希望をもつことができた」との肯定的な回答の割合を 70% 以上にする。	
取組内容④【2－1・3 道徳教育・人権教育の推進】（生活指導部） 生徒が自尊感情を高める取り組みとして、ポジティブ行動支援を各活動に取り入れる。	
指標 ポジティブ行動支援について、外部講師を招いた研修など導入に向けた研修を計画的に年 3 回行い、独自アンケートなどから成果の確認を年度末に行う。	
取組内容⑤【１－１、いじめへの対応】（生活指導部） 「いじめ対策委員会」を中心に、校内の児童生徒の状況を全教員や支援の職員が共通理解し、早期発見と対応にあたる。 指標 朝と昼の 2 回、生徒の授業中や校内での様子や態度について情報交換し、問題行動の早期発見と早期解決に努める。また、週末の放課後、一週間の行動を「振り返りシート」に書かせ、いじめ等の問題行動の未然防止に努める。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

大阪市立弘済中学校分校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 70% 以上にする。 (R 6 = 38.6%) (「だいたい思う」を加えると 75.0%) ○中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント向上させる。 R 6 = 現 3 年生: 国語-6.6 点、数学-13.9 点 現 2 年生: 国語-16.8 点、数学-19.8 点) ○大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を 10% 以上にする。(R 6 = 25.0%) ○年度末の校内調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 70% 以上にする。(R 6 = 70.5%) (「だいたい好き」を加えると 90.9%) ○令和 7 年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 90% 以上にする。(R 6 = 84.1%) (4 誰一人取り残さない学力の向上 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進 (各学校の実態に応じた個別支援の充実)) ○令和 7 年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 90% 以上にする。(R 6 = 97.7%) (5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進) ○令和 7 年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年 90% 以上にする。(R 6 = 88.6%) (5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【４－２、「主体的・対話的で深い学び」の推進】（学力PJ） 学力向上PJが中心となって、子どもの学習理解度に応じた指導内容を作成するなど、組織による基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を計画する。 指標 授業アンケートの「授業理解」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。	
取組内容②【４－２、「主体的・対話的で深い学び」の推進】（学力PJ） 生徒の学習面でのつまずきや悩みを早期に解決するため、学園の支援職員や寮長・寮母との情報交換を密にするなど、連携の強化を図る。 指標 学園職員に学校教育に関するアンケートを実施し、「学力」に関する項目の肯定的な回答を90%以上にする。	
取組内容③【４－１、言語活動・理数教育の充実】（学力PJ） 授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表する機会を单元ごとに設ける。 指標 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。	
取組内容④【７－２、教員の資質向上・人材の確保】（研究主担） 授業研究を伴う公開授業を実施し、その後の授業研究協議等により、教員の教科指導力の向上に努める。 指標 全ての教員の資質能力を高めるために、外部講師を招いた研究協議を伴う公開授業を3回以上実施する。	
取組内容⑤【４－１、言語活動・理数教育の充実】（学力PJ） 言語活動の充実に柱に、新聞の活用を各教科で取り入れ、たくましく生きていくための幅広い知識の習得に努める。 指標 各教科で新聞を活用した授業の実践と校内研修で実践事例の交流を行う。	
取組内容⑥【５－１、体力・運動能力向上のための取組の推進】（保健体育科） 自ら進んで運動に親しみ、自己の健康・体力に興味と関心が持てるよう、学校の授業や体育的行事のみならず学園のスポーツ行事も積極的に活用する。 指標 生活実態アンケートを実施し、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味と関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。	
取組内容⑦【５－２、健康教育・食育の推進】（保健主事） 毎日の健康観察より感染症の早期発見・早期対応に努める。また、「ほけんだより」や保健に関する掲示物などを活用し、感染症を初めとする病気やケガの防止について情報を発信し、啓発活動等を積極的に実施する。 指標 「保健だより」を毎月1回発行する。 廊下や階段等にタイムリーに健康に関するポスター等を掲示する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

大阪市立弘済中学校分校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] (R 6 =13.3%) ○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。 (R 6 =70.0%) ○令和 7 年度の、学園に対する校内アンケートにおける「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目について、肯定的な回答をする学園職員の割合を毎年90%以上にする。 (R 6 =85.7%) (9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【９－１、地域学校協働活動の推進】（広報・連携） 広報・連携推進プロジェクトチームが主体となり、組織による学園、保護者、関係機関との連携の強化を図り、学園行事にも積極的に参加する体制づくりに努める。 指標 学園職員に学校教育に関するアンケートを実施し、学園行事に対する「協力」、「連携」等の項目において、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。	
取組内容②【９－１、地域学校協働活動の推進】（生活指導部） 芸術鑑賞や運動会・創立祭など、学園との共催行事に積極的に関与し、教育と支援の両面から生徒の心身の成長を促進する。 指標 学校教育に関するアンケートを学園職員に実施し、「徳育」、「知育」、「体育」、「連携」の４項目において、肯定的な回答をする割合を 80%以上にする。	
取組内容③【９－１、地域学校協働活動の推進】（生活指導部） 学校や学級内で発生した問題などについては、担任、生活指導部、生徒指導主事を中心に迅速な対応と解決に努め、寮長や寮母等に学校での指導の経過を説明し、寮内での指導の一助になるよう努める。 指標 「特別指導教室」での指導件数を、昨年度より 10%程度減らす。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点